

7. 精米及び流通

農場で生産された籾が精米され消費者に渡る流通ルートには、下記の2種類に大別される。

1. 精米工場を持つ精米・販売協同組合(農場が組合員)へ販売依頼されるか、
2. 一般企業の精米業者によって籾が購入され、精米(又は玄米)は卸売り業者又は加工業者に販売される。

1980年代末迄、カリフォルニア産米の7割程が、生産者がメンバーである Rice Growers Association of California(RGA)と Farmers' Rice Cooperative(FRC)の2つの精米販売協同組合により取り扱われていた。しかし乍ら、近年深刻な経営破綻が噂されていた RGA は、遂に 2000年 11月 3日に協同組合としての営業活動を停止するに至った。

RGA は 1915年に発足した Pacific Rice Growers' Association を前身に、1920年に生産者の精米販売協同組合として設立された。当時の組合員数は 21 農家であったという。RGA の全盛期といわれる 1970年代には、会員数約 1,600、5つの精米所を持ち、カリフォルニア産米の 60%を取り扱ったという。しかし、1980年代に入り、籾の国内価格の低迷、減反政策の影響、韓国市場の消滅、更に 1970年代末に行った大型設備投資の負担等が RGA の経営に影を落とす結果となった。1986/87 米穀年度には赤字決算となり組合員への籾代金の支払いも十分に出来ない状態に成っていたという。1989年に西サクラメントの大型精米工場を手放し、1991年にビッグス市の精米工場を売却した。1993年の日本の緊急輸入以降、RGA も日本向け米に力を入れたが、既に体力が落ちていた RGA は立ち直る事が出来なかった。そして遂に 2000年 11月 3日、1960年代から 70年代にかけカリフォルニアにおける精米・販売業界のトップの座を誇った RGA は、80年の歴史を閉じる事となった。

FRC は当初の名称を Farmers' Rice Growers Co-operative として 1944年 3月に設立された。現在の FRC のメンバー数は約 900 農場といわれ、また、FRC はメンバー以外の籾も取り扱う事より、FRC のカリフォルニアにおける取扱いシェアは約 25%といわれ、同州精米・販売業界のトップの座を占めている。サクラメント港に隣接する 26 エーカー(10.4ha)の敷地に 2つの精米施設を持ち、その 1つは 1982年に建設されたものである。毎時 20万ポンド(91トン)の籾を精米・梱包できるコンピューター制御の精米施設である。